

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付	2016年5月1日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	ステパノ～赦す力
テキスト	使徒6:3、5、10-15、7:54-60
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	エペソ4:32
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 巻④2 課、中学 3 巻①1 課
□導入	<p>「あのことだけは、赦せない」ことってありますよね。「あやまったら赦してあげよう」と思うこともあるよね。でも、赦せない心を持ったままだと苦しいよね。どうしたら人を赦すことができるのでしょうか？</p>
□ポイント1 ステパノは、聖霊に満たされた人でした(使徒6:3、5)	<p>リーダーを助ける人ってどんな人が良いと思いますか？教会が誕生して 12 使徒を助ける働きをするために、信徒の中から 7 人が選ばれました。たくさんいる信徒の中で、その 7 人を選ぶ基準として、御霊と知恵に満ちた人、そしてみんなからの評判が良い人、しっかりとした信仰を持っている人が選ばれました。その中にステパノと呼ばれる人がいました。</p> <p>* ここでは 7 人が選ばれた経緯については深く触れていません。聖霊に満たされている人は、人を赦す力が与えられるという主題に重きをおきたいからです。しかし教師は 6-7 章の背景や様子を知るために、聖書を熟読しておきましょう。</p>
□ポイント2 ステパノは、御使いのような顔をしていました(6:10-15)	<p>ステパノは聖霊によってイエス様のことを人々に語りました。しかし人々は、偽りを言う人々を証人として立てて、ステパノを襲い、議会に引っ張ってきました。そして人々はステパノが言ってもいないことを言ったと話し出したのです。そこにいた人々はステパノのことをみんなが悪く言うので、きっとステパノは怒ったり悲しんだりしているだろうと思ってステパノの方を見つめました。しかし、なんと、人々がステパノの顔を見ると、まるで御使いの顔のようにおだやかな聖なる顔をしていたのです。</p> <p>☞ 自分のことを悪く言われることは、とっても嫌なことだと思います。しかもみんなの前で嘘までつかれています。それでもステパノは、おだやかに、自分が語る番を待ちながら、全てを神様にゆだねていました。そこにいる人々が驚くほどの様子でした。この話しを聞く子どもたちも同じ驚きを持つように、この場面を語りたいですね。「聖霊に満たされるって、こんなにすごいことなんだ」という驚きが伝わるように、子どもたちに語る時に聖霊が働いて下さるように祈って備えましょう。聖書の中でも、感動を覚えずにはおれないシーンの1つです。何の例話もいらないでしょう。</p>
□ポイント3 ステパノは、人々を赦しながら殉教しました(7:54-60)	<p>ステパノは人々に聖書のメッセージを語りましたが、それを聞いていた人々は自分のことを悪く言われたように思い、はらわたが煮えくりかえるぐらいに怒りました。しかし聖霊に満たされたステパノは、天におられるイエス様を信仰によって見つめ、「イエス様は神の右に立っておられます」と言いました。それを</p>

聞いた人々は、大声で叫びながらステパノに殺到し、町の外に追い出して石を投げ始めました。無実なのに石打ちの刑にあいながら、それでもステパノは「主よ。この罪を彼らに負わせないでください」と石を投げつけている人々の罪の赦しを祈りながら、殉教していきました。

☞ステパノの祈りの言葉は、イエス様が十字架の上で祈られた祈りに通じています。「主イエスよ。私の霊をお受けください」(7:59)は、「父よ、わが霊を御手にゆだねます」(ルカ 23:46)。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください」(7:60)は、「父よ、彼らをおゆるしてください」(ルカ 23:34)。イエス様を信じて聖霊に満たされている人は、キリストの心を心とし、キリストに似る者とならせていただけるのでしょうか。「赦す」ということも、聖霊の力を受けなければ本来的にはできないものでしょう。

☞殉教とは、イエス様を信じる信仰のゆえに命を失ったとみなされる死のことです。

□結論 聖霊に満たされる時、人々を赦す力が与えられます

ステパノが素晴らしい人だから、自分のことを悪く言う人々を赦せたのではありません。聖霊がステパノに罪の赦しを祈る力を与えていたのです。「いや私にはあのことはゆるせない」と思うことがあるかもしれませんが、そのことこそ、人間の力ではなく、聖霊の力が必要なところではあります。聖霊は、人々を赦すというイエス様の心を与えてくれます。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

悪口を言われたら、言い返したくなります。意地悪をされたら、仕返しをしたくなります。「相手があやまったらゆるしてやろう」と思います。でも、相手があやまらなかったとしても、その人を赦す力を聖霊は与えてくれるのです。もちろん間違っていることは間違っていると言うことは必要です。でも赦すことも忘れてはいけません。イエス様も私たちが悔い改める前に、罪を赦してくれました。愛するよりも先に愛してくれました。そんなイエス様を見つめながら、聖霊によって赦す力を頂きましょう。今、「あのことだけは赦せない」と思っていることを、十字架のイエス様を思いながら一緒に祈りましょう。聖霊なる神様は、赦す力を与えてくれます。

子どもたちの心の深みに触れることになるかもしれません。赦すことに対して、大きな傷を受けていることなどは、感情的に肯定することができない場合もあると思います。そういう深いトラウマなどを抱えている子どもたちがいれば、あせらせる必要はありません。まずはその痛みや傷をイエス様が癒してくださるということを伝えましょう。そして気持ちよく赦すことができなくても、憎むことをやめることの決心に導くことが大切です。個々人の状況を鑑みてケアをしていきましょう。

教師ノート

日付	2016年5月8日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	テモテ～力と愛と慎み
テキスト	Ⅱテモテ1:7-8
参照箇所	使徒 1:8、ローマ 5:5、Ⅰヨハネ 4:18、Ⅱテモテ 2:1、ガラテヤ 5:22、Ⅰコリント 16:10
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Ⅱテモテ1:7
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	
□導入	誰でも「こわいなあ」と思うことがあります。最近、どんなことを「こわいなあ」と思いましたか？大伝道者パウロを助けたテモテという人がいました。若いテモテは、どうやら臆病で、体も強くはなく、心も弱かったようです。牢獄の中にいるパウロがそんなテモテを励ますために心を込めて書いた手紙があります。どんなことが書かれているのでしょうか？
□ポイント1 聖霊は、力を与えます(1:7-8)	イエス様のことを宣べ伝えていたことが原因で、パウロ先生は獄に入れられてしまいました。若いテモテは自分も同じように捕まってしまうかもしれないと思ったかもしれません。しかし神様が私たちに与えて下さった聖霊は、弱気になる私たちに力を与えます。それはイエス様のことをあかしする力です。そして苦しいことがあっても耐えていく力です。人間の勇気や力には限界があります。でも神様は、聖霊の力を与えてくれるのです。
☞	ここで使われている力は「デュナミス」という単語で、ダイナマイトの語源として使われるほどの圧倒的な力です。しかし破壊的な力ではなく、困難に負けない力、人を生かす力(長血の女性に流れた主イエスの力と同じ力)です。
□ポイント2 聖霊は、愛を与えます(1:7、Ⅰヨハネ 4:18)	聖霊は、私たちに愛を与えます。愛は恐れを締め出します。そして臆病を取り除きます。聖霊は恐ろしかったり臆病になったりする私たちの心を、神様の愛でいっぱいにしてくれるのです。
☞	例話① 火事になってしまった時、家の中にまだ小さな子どもがいることが分かりました。しかし火の手が強くなり助けに行くと自分も大火傷するかもしれません。その時、バケツの水をかぶって炎の中に入っていき人がいました。そして火傷を負いながらも、子どもを助け出すことができました。その助け出した人は、その子のお母さんでした。炎を恐れることよりも、我が子を愛しているから、助け出さずにはおれなかったのです。「愛は恐れを締め出します」
☞	例話② 無視されていじめられている友だちがいました。「助けてあげたい」、「味方になってあげたい」と思うのですが、そうすれば今度は自分がいじめられてしまうかもしれません。臆病になります。でも本当の友だちなら、自分がいじめられるかもしれないという恐れや臆病に負けないで、友情を大切にします。そのように友だちを大切にする愛も、聖霊が与えてくれるのです。

□ポイント3 聖霊は慎みを与えます（1:7）

自動車のエンジンを力（どんな坂でも困難でも登れます）、アクセルを愛（恐れないで行動する）としたら、慎みはブレーキとしてたとえることができるでしょう。自動車にブレーキがついていなかったら、一緒に乗っている人を危険な目にあわせてしまうことになります。聖霊は、私たちに慎みを与えてくれます。慎みとは、相手のことを思いやって自制をすることができる心のことです。

☞例話 いつも一緒に仲良くしている友だちのグループから、チームプレーで万引きを一緒にしないかと誘われたとします。悪いノリで友だちは盛り上がっています。断れば、その場の空気を読めない人（KY）のように盛り上がりを消してしまうかもしれません。しかし万引きをすることは、もちろん悪いことだし、店の人にも、そして友だちにもよくないことです。しかし本当の友だちとは、間違っている時に間違っていると言える関係でしょう。聖霊は恐れる私たちの心に、友だちを思いやり、「NO」と言える慎みを与えて、良いブレーキ役として下さるのです。

□結論 恐れたり、臆病になることがあります。そんな時、お祈りをし、聖霊から力と愛と慎みとをいただきましょう。

☞教師自身の体験として、聖霊の力、愛、慎みが与えられたという具体的な証しをするのも良いでしょう。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

次の3つの内、どれが自分に足りないと思いますか？

- ①イエス様を証する力（友だちにイエス様のことを話したり、教会に誘うこと）、
- ②人を愛すること（お父さんやお母さんの言うことを聞くこと、兄弟げんかや友だちを仲間外れにしないこと）、
- ③がまんするという慎み（みんながやっているからといって一緒になって悪いことをしないこと、ゲームやテレビに夢中になることをがまんして宿題やお手伝いをする）

今から一緒にお祈りをして聖霊なる神様から力と愛と慎みを頂きましょう！そして聖霊によって「こうできます」と決心して実践していきましょう。私たちがしなかった親切は、イエス様にしなかったこととなります。私たちのまわりに困った人がいたら、自分に何が出来るかを考えましょう！それがどんなに小さなことでもイエス様にしたこととして、イエス様が大いに喜んでくれます。

教 師 ノ ー ト

日付	2016年5月15日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	聖霊によって誕生した教会
テキスト	使徒2:1-4、41-47
参照箇所	使徒2章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	使徒2:42
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	幼稚1巻③8課 、 中学1巻②6課
□導入	「教会って何？」って聞かれたら、みんなはどう答えますか？今日は教会の誕生と最初の教会ではどんなことをしていたのかを聖書から学びましょう。
□ポイント1 約束の聖霊が注がれました(使徒2:1-4)	十字架にかかって3日目によみがえったイエス様は、聖霊のバプテスマを受けるという約束をして天に昇っていかれました。イエス様が天に昇っていかれた10日後の五旬節というお祭りの日に、弟子たちが集まっているところに、突然天から激しい風が吹いてくるような響きがあり、家全体に響き渡りました。そして炎のように分かれた舌のようなものがひとりひとりのの上にとどまりました。するとみんなが聖霊に満たされて、聖霊が語らせるままに自分が普段使っているのとは違う言葉(異言)で神様を賛美し始めたのです。
☞	風や炎は、旧約聖書にも記されている象徴と関係しています。風は実際に風が吹いたのではなく、突風のような音が天から起こり、家いっばいに響き渡りました。旧約においても風は御霊の象徴です。炎は、さばきやきよめの炎ではなく礼拝と宮に関係しているようです。アブラハムの祭壇、モーセの幕屋、ソロモンの神殿において、火がくだって犠牲を焼き尽くし、神が聖所を受け入れたことを示しました(それぞれ1回限りの出来事)。この火の現れは、クリスチャン1人1人を聖霊の宮としてからだ全体を神が受け入れられたことを示すためでした。旧約時代の新しい聖所に火が1回しかくだらなかったように、風や炎は教会の誕生としての出来事です。しかし異言は繰り返されています。(ホートン『すばらしい聖霊の働き』より)
☞	「五旬節」(1)・・・50日目の祭りの意味で、大麦の初穂の束を捧げる日から数えて50日目に行われたことから「ペンテコステ」とも呼ばれる。七週経過することから「七週の祭り」とも呼ばれたり、大麦の収穫が終わり、小麦の収穫となるので「刈り入れの祭り」「初穂の日」とも呼ばれる。「過越の祭り」「仮庵の祭り」となるとユダヤ人三大祭りの一つ。(『エッセシャル聖書辞典』などより)
☞	「すると突然」(2)とありますが、人間の側には「突然」のように見えたとしても、これは父の約束ですから神様の側からすると「必然」でしょう。
□ポイント2 聖霊によって教会が誕生しました(2:41)	弟子たちが異言で神様を賛美していたことに驚いた人々に対して、ペテロは聖書の言葉が実現したこと、イエス様を信じることを語りました。するとそのメッセージを受け入れて、イエス様を信じた人々が3000人ぐらいたったのです！そしてその3000人は洗礼(バプテスマ)を受けたのです。

☞ 学校に創立記念日があるように、教会も誕生日があります。聖霊が注がれたことによって、教会が誕生しました。

☞ 生徒の状況を見ながら、教師自身が洗礼を受けた時の証しをしても良いでしょう。「洗礼を受けなければならない」ということではなく、イエス様を信じて洗礼を受けたことの素晴らしさを語ると良いでしょう。

□ポイント3 聖霊によって教会は成長しました（2:42）

聖霊が注がれることによって教会は誕生しました。誕生した教会では、どんなことをしていたのでしょうか？42節と一緒に読んでみましょう。

洗礼を受けてイエス様の弟子となった人々は、使徒たちの語る聖書の言葉を堅く守っていました。今の教会も同じですね。そして交わりをしていました。交わりというのは、一緒にお話しをしたりすることもそうですが、イエス様を中心にお互いに励まし合ったり助け合ったりしていました。そしてパンを裂いていました。食事を一緒にするというだけでなく、十字架にかかってよみがえったイエス様を礼拝していました。最後に祈っていました。一緒に集まってお互いのために祈り合っていました。

☞ 「パンを裂く」ことは、愛餐会と聖餐式の両方が含まれているでしょう。パンを裂くことは、十字架の意味を思い返すと共に、今ここにおられる復活のイエス様に出会うという意味です。礼拝でも食事の時でも、生きておられる救い主のイエス様が真ん中におられるということです。（『新聖書注解』参照）

□結論 聖霊によって誕生した教会は、聖書の教えを守り、お互いに交わることを大切にし、十字架にかかってよみがえったイエス様を礼拝し、一緒に祈る者たちの集まりです

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

- ① 教会学校のお話しをよく聞き、実行していますか？
- ② 年齢が違っていても教会学校のお友だちと仲良くしていますか？
- ③ 教会は十字架のイエス様を礼拝する者たちの集まりです。
- ④ 聖霊によって誕生した教会は、これからもお互いのために祈り合います。
（お互いの祈禱課題を出し合っても良いかも）
⇒ 聖霊によって始まった教会ですから、そうしていく力も聖霊が与えてくれます。

教 師 ノ ー ト

日付	2016年5月22日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	バルナバ～慰めの子
テキスト	使徒9:26-28、15:36-41、11:22-24
参照箇所	使徒11:22-24、Ⅱテモテ4:11
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	使徒11:24
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小上 3 巻①5 課 、 中学 3 巻①3 課 、 中学 3 巻①6 課
□導入	みなさんには、どんなニックネームがありますか？今日は、ヨセフという本名ではなく、バルナバというニックネームで呼ばれた人のお話です。
□ポイント1 バルナバは聖霊に満たされていました(使徒4:36、11:22-24)	ヨセフと言えば、創世記に出てくる 12 人兄弟の1人でエジプトに奴隷として売られてやがて総理大臣になったヨセフ、そしてイエス様の育ての父であるヨセフを思い出すでしょう。今日みんなに紹介したい人もヨセフさんなのですが、このヨセフさんはバルナバと呼ばれていました。バルナバっていうのは「慰めの子」という意味があります。本名のヨセフとバルナバが結びつかないくらい、当たり前のようにバルナバと呼ばれているほど、この人は人々を慰め、励ます人でした。このバルナバさんは、慰め主・助け主である聖霊に満たされた人だったから、人々を慰めたり励ましたりすることができました。
☞「慰めの子」は「パラクレシス」という言葉で、聖霊の別名である「助け主」(ヨハネ 14:16)の「パラクレトス」と同じ語源です。新改訳聖書の欄外(ヨハネ 14:16)によると、「パラクレトス」は、援助のためにそばに呼ばれた者、とりなしてくれる人のこと。	
□ポイント2 バルナバは、サウロを助けました(使徒9:26-28)	かつてサウロはクリスチャンを迫害していた人だったので、みんなはサウロがイエス様を信じて弟子になったことを信じられないで恐れていました。しかし慰めの子と呼ばれるバルナバは、サウロをみんなのところに連れて行き、サウロがクリスチャンを迫害する人からイエス様を大胆に語る人になったことを説明しました。その結果、サウロはみんなと一緒に神様の働きをすることができるようになりました。このサウロはやがてパウロと呼ばれて、世界中の人々にイエス様を伝えたり、新約聖書になっている手紙などを記したり、大きな働きをしました。そのきっかけとなったのは、聖霊に満たされていたバルナバが、サウロに対する誤解をとり、サウロを助けたことでした。
☞「サウロ」は、パウロのヘブル名(ユダヤ名)のことで、「パウロ」はギリシア語名(ローマ市民名)です。使徒の働き13:9では「別名パウロ」と紹介され、それ以降は回想場面以外すべてパウロと呼ばれています。(「エッセンシャル聖書辞典」、「新聖書注解」参照)	
□ポイント3 バルナバは、マルコを励ました。(使徒15:36-39、Ⅱテモテ4:11)	パウロとバルナバは、第 2 回目の伝道旅行に出かけることになりました。バルナバはマルコを連れて行きかけたのですが、パウロは第 1 回目の伝道旅行の途中で帰ったマルコを連れて行くことに反対しました。しかしバルナバはマルコを見捨てることなく、マルコと一緒にキプロス島へ伝道に行きました。このようにバルナバはマルコを励まして育てる働きをしたので、やがてパウロからも「マルコは役に立つ人

です」と信頼される人に成長していきました。

☞ マルコは、ヨハネ・マルコと呼ばれている人物です。バルナバとはいとこの関係でした(コロ4:10)。ペテロの弟子と言われることもあり、ペテロから聞いたことなどを書き写したのがマルコの福音書だと言われています。まさに「役に立つ人」として成長していきました。(「エッセンシャル聖書辞典」参照)

□結論 聖霊に満たされている人は、人を慰め、助け、励ますことができます。

☞ 神は愛です。だから神の愛の中にいる者は人を愛するようになります(Ⅰヨハネ4章)。同じように、聖霊は私たちを励まし慰め助けます。その聖霊に満たされるとき、自分自身が慰められる、励まされるというところに留まらず、人を慰め励まし助ける者になることができるのでしょ

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

みんなから嫌がられたり、仲間外れにされている人が周りにいませんか？失敗したり、苦手なことがあって悩んでいる人が周りにいませんか？その人のために祈って聖霊の力を頂いて、励ますために声をかけたり、手紙を書いたり、教会学校に誘ってみましょう。バルナバが、サウロ(パウロ)やマルコが主に用いられていくための助けになったように、あなたも聖霊の力を頂いて、誰かを慰め、励ますことができます。

① 聖霊は、あなたをバルナバのように用いたいと願っています。今、神様があなたの友だちや家族の誰かのことを「励ましてくれないだろうか？」「助けてあげてくれないだろうか？」と願っている人がいると思います。どの人のことを思い浮かべますか？

② 今、その人のために何ができるかを考えてみよう。どうすれば、その人の助けになり、励ましになるだろうか？

③ 聖霊は、人を慰め、励まし、助ける力を与えてくれます。今、私たちにその力が与えられるように一緒にお祈りをしましょう。

教師ノート

日付	2016年5月29日
単元	ペンテコステ
テーマ	聖霊を受けなさい
タイトル	聖い霊
テキスト	使徒4:32-5:11
参照箇所	使徒11:24、ヨハネ16:8、Iヨハネ1:9
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Iヨハネ1:9
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	少下1巻③10課 、 少上3巻①3課
□導入	言えそうで、心から素直になって言えない言葉って何だろう？ その1つが「ごめんなさい」だと思います。どうして「ごめんなさい」って素直に言えないんだろう？(考える時間を持つ) 今日は素直に「ごめんなさい」と言えなかった人のお話しが出てきます。
□ポイント1 教会は、聖霊に満たされていました(使徒4:31-37)	聖霊に満たされて誕生した教会(31)は、貧しくて困っている人はいませんでした。それはみんながお金持ちだからだったからではなく、心をつにしてお互いに助けあっていたからです。先々週に学んだ慰めの子のバルナバさんも、聖霊に満たされている人で(11:24)、神様の前に正直で助けあう心を持っている人でした。
☞	ここで聖書は「共産主義」や宗教的な「共同生活」を勧めているわけではありません。教会が誕生した初期という時代とその規模(顔が見える家族的な範囲)などの背景を知る必要があります。いわゆる初代教会の「原始共産的」なあり方も、永続したわけではありません。「無政府主義」や「マルクス主義的共産主義」は、この原理を国家全体に、また世界全体に拡大できると勘違いしたとある学者が指摘しているとおりです。ここでの中心は、制度ではなく、お互いに助けあったということでしょう。
□ポイント2 アナニヤとサツピラは、献金をごまかしました(5:1-11)	お互いに支え合い、また神様の働きのためにささげる献金だったのですが、アナニヤとサツピラという夫婦はごまかした献金をもってきました。(どうやら周りの人から「すごいね」と言われたかったのかもしれない)しかしペテロは、ごますことは聖霊へのあざむき(裏切り)だと言いました。ペテロが語り終えると、アナニヤもサツピラもショックのあまり息が絶えてしまいました。
☞	「土地を売ってお金を全部、献金にささげなければならない」という印象を与えないようにしましょう。一部だったら一部と素直に言えば良かったことが伝わるように話しましょう。
☞	アナニヤとサツピラの死は、「単なるショック死ではない」(『新聖書注解』)と述べ、「神のさばき」であったという説が示されています。もちろん生と死は神の御手の中にあり、死は最終的には罪の結果です。しかしある学者は新約の時代だから「ショック死」だと表現しています。子どもたちに語ることを鑑みた時、伝えるべき点をしっかりと伝えているなら(聖霊をあざむく罪の大きさ)、「ショック死」と語っても良いと思います。
☞	このことは、教会に非常な恐れが生じる出来事でした(5、11)。しかしこのことで、人々は教会から遠ざかったのではなく、むしろ尊敬を受け(14)、主を信じる者が男女ともますます増えていきました。

□**ポイント3 聖霊は、聖い霊です（5:3-4、8-9）**

ペテロはアナニヤとサツピラが代金をごまかしていることを、聖霊によって知ることができました。ペテロが何でも知っているというよりも、聖霊が人の心の中にあること（良いことも、そうでないことも）を全部知っておられます。サツピラは、ペテロが「この値段で土地を売ったのですか？」と聞いた時に、素直に罪を認めて悔い改めることができたなら良かったのですが、「はい、その値段です」と言いました。聖霊は、聖い霊なので、いつわること、ごまかすこと、だますこと、罪を隠すことを嫌います。ただ嫌うだけではなく、罪を指摘して悔い改める機会を与えます。

□**結論 聖霊は、私たちの罪を示し、悔い改めに導く聖い霊です。**

□**適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）**

罪は放っておくと、カビや癌細胞のように、どんどん増え広がっていきます。今、私たちの中に、隠している罪、ごまかしていること、嘘をついていることはないでしょうか。誰も知らなくても聖霊は知っています。イエス様は、その罪を責めてさばいて、みんなをひどい目にしようと思っっているのではありません。みんなを愛しています。愛しているからこそ、汚いもの、ごまかしているもの、そういうものを持ったままでいてほしくないのです。イエス様はみんなを愛していますが、罪はお嫌いなんです。その罪をイエス様の十字架の血潮で聖くしたいと願っています。今、勇気を持って祈りの中で告白し、罪を悔い改めましょう。私たちが悪や罪から聖めてくれます。（Iヨハネ 1:9）

- * 子どもたちの様子を見ながら、個人的に悔い改めへと導いてあげてもよいでしょう。その時、イエス様の十字架によって赦されたことを最後に強調して励ましましょう。